

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200554		
法人名	社会福祉法人 愛隣会		
事業所名	グループホーム はさみ里		
所在地	長崎県東彼杵郡波佐見町稗古場郷798番地1		
自己評価作成日	平成 28 年 1 月 18 日	評価結果市町村受理日	平成 28 年 4 月 6 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4271200554-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 28 年 3 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が安全に安心して楽しい生活が送られるように、家庭で大切にされていた行事・家族交流・近所の方との出会いなどの継続、機能低下防止のためのリハビリ、脳の活性化のためのレクリエーションなどを行っている。また、質の高い介護を提供するために、職員の資格取得や各研修への参加、ホーム内での学習会を行っている。職員間の人間関係は円滑で、職員はいつも笑顔を絶やさぬ姿勢で、気持ちにゆとりを持ち入居者に寄り添う介護に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が同敷地内の病院であり、病院内にデイケアサービス事業所が開設されており利用者は必要に応じてリハビリテーションのサービスを受けている。また、敷地内にはサービス付き高齢者向け住宅・特別養護老人ホーム・デイサービスセンターの施設があり、多様な介護・医療の事業が展開されていて各々が協力し合える連携体制が整備されている。数件の近隣住民との関わりが強く、避難訓練にも積極的に参加していただいている。ホーム内のフロアには天窓が設置され心地よい日差しがフロアに一層明るい雰囲気を出している。居室においては、入居者の馴染みの家具や飾りを自由に配置してもらっており、中には仏壇・こたつ・冷蔵庫等を希望通りに設置してある居室がある。入居者の身体状況に応じて、介護の基本である『出来る事はしていただき、出来ない所をお手伝いさせていただきます』を念頭に日々の支援に従事している。職員と入居者間の笑顔が常に見受けられるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 りんご

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つの理念を朝の申し送り時に職員全員で述べて、その日の介護実践に繋げている。	5つの理念を朝の申し送り時に唱和し、全職員が把握してその日の介護実践に繋いでいる。フロアと事務室に理念が掲げている。職員ヒヤリング時確認した。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや避難訓練、野菜作り等、近隣の方の協力を得ている。また、婦人会のボランティアによる掃除やタオルの贈物、踊りの披露がある。入居者とちまきを作り、近隣に配っている。	地元の行事に積極的に参加し、事業所の催し事には家族・近隣住民・運営推進会議メンバーにも参加していただいている。ボランティアで婦人会による掃除・踊りの披露がなされている。端午の節句には入居者と共に粽を作り近隣に配っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居申し込み時や見学時に相談を受けたり、中学生の体験学習時に認知症の支援方法について説明するなど、地域に貢献している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回運営推進会議を開催し、その内の3回は委員の方に食事会や職員会議、火災訓練に参加して頂き評価を受けている。	年に6回の会議の内、3回の会議にはメンバーが食事会・職員会議・火災訓練に参加、その際に職員との意見交換の機会を設けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所、退所時は、書類提出による現状報告を行ったり、運営推進会議に参加して頂き、現状報告を行い行政との連携に努めている。	町役場の健康推進課課長が運営推進会議のメンバーであり、すぐに相談できる体制が整っている。地域包括支援センターとの連絡体制が整い、利用者受け入れの依頼の連絡等がある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	愛隣会で開催する身体拘束委員会に月に1回参加し、委員は拘束に関することを抜き打ちチェックを行い、結果を職員会議で討議している。日中は鍵を掛けず、チャイムを設置し拘束をしないケアに努めている。	月1回法人で開催される身体拘束廃止委員会に参加、事業所内では委員が抜き打ちチェックを行い、結果を職員会議で討議している。問題行動については帰宅願望が主であり、その際は自宅まで同行したり利用者の心身の把握をする事でコミュニケーションを図りながら落ち着いていただく工夫がなされている。系列事業所も含め、身体拘束廃止や虐待防止への研修参加等の取組を充実させていくことを期待する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞やテレビ等で虐待に関することがあれば、朝の申し送り時に話題にしている。また、入浴時に、皮膚の状態を密に観察するように心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当者はいないが、新聞や研修等で学ぶ機会があり理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書に基づき説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、ケア会議時に意見を頂いたり、家族へアンケート調査を行い、また、玄関に意見箱を設置し、それらの意見を運営に反映している。	苦情等相談窓口の担当、連絡先等が重要事項説明書に記載されている事を書面にて確認できた。家族の面会時には、必ず意見を聴いて利用者の日々の支援に取り組んでいる。玄関に意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員が意見を言えるような雰囲気作りに努め、月に1回職員会議を開催し全体会議や各委員会の伝達を行ったり、職員間でも討議できる場を設けている。	会議は、職員の意見等が言いやすい雰囲気であり、管理者等は個別に時間を設け相談等に対応しており、早急に解決すべき内容にも対応できている事が、職員ヒヤリングで確認できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	タイムカードによる勤務状況の把握や時間外手当、資格取得による給与アップを行っている。また、年間の個人目標を掲げ実践できるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に応じた研修参加や出前講座による医療知識、ターミナルケア、認知症介護についての勉強会への参加、また、朝の申し送り時に機会的教育に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアネット波佐見やケアマネジャー協議会、他グループホーム間による意見交換を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に自宅や施設へ訪問し、また、来訪して頂き、馴染みの関係作りに努めている。また、入所時に要望等を聞き、意向に沿うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時や自宅訪問時に困っていることや不安なこと、要望を聞き関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前や入所時に、家族やケアマネジャーから情報収集を行い、初期計画を立案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活では、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器拭き、裁縫等を行い、また誕生会ではケーキ作り、季節行事では、ちまき作りを共に一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やケア会議時、年に2回の外食会時に近況を説明し、意見交換を行ったり、入居者の電話要求時は支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容教室やかかりつけの病院への通院、友人、近所の方の面会、故郷巡りでの近所の方との再会等、馴染みの関係継続に努めている。	入居前に住んでいた家に行く故郷巡りを行う前に、近隣の方々に連絡をしておき、当日には以前の馴染みの方々に会えることができるような支援をしている。希望する美容室への同行支援、知人の面会、掛りつけ医の受診同行等の支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う同士の把握を行い、テーブルの配置や昔からの知り合いや親戚同士が過ごせる場を提供したり、その日の受け持ち職員を決め孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者と一緒に入院された方を見舞いに行ったり、また、退所された家族がちまき作りの材料を持って来て下さる等、面会が多い。また相談や支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時や日々の会話の中で、意向を聞き、実践できるように努めている。	記録については、職員の利用者担当制により、職員全体がケアプラン作成に携わっている。介護日誌にてその内容が確認できた。緑内障による中途視力障害の利用者には、見守りながら動線の把握ができるような声掛けがなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャーや家族から情報収集を行い、入所時の基礎情報から把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌や介護記録から1日の過ごし方や心身状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受持ち制を取り入れ情報収集を行い、介護計画を立案し、それを基に職員、家族とケア会議を行い、現状に即した介護計画を作成しモニタリングを行っている。	入居者の介護計画等は、各職員が受け持ち、情報収集しケアプランを立案している。入居者に変化等があった場合は、その都度ケアプランの見直し、変更に対応している。モニタリングにおいては介護支援専門員が担当している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいたケアを実践している。介護記録、業務日誌、連絡簿による情報の共有に努めケアや介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	美容教室や仏事ごと、お正月の帰省等、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化祭や畑の原祭り等地域の行事に参加し、場所や駐車場の確保、車の乗降りの支援を受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に、かかりつけ医の定期受診を行い、また異常時や急変時は適切な医療を受けられるように支援している。	以前からのかかりつけ医がある入居者には希望通りの受診をしていただき、家族が対応できない場合は受診同行の支援を実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で異常時は、即看護職へ報告し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。夜間帯でも、すぐに連絡できるようにになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーによる情報提供し、入院中より病院関係者と情報交換し、退院に向けても相談できる関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族に早い段階から終末期の意向を確認し共通理解シートに記入している。また、ターミナルケアの学習会を重ね、資料作成を行い、重度化した場合は家族、医師とも十分話し合い、終末期に向けて支援できるように取り組んでいる。	前回の調査の提案では『現状における問題点、課題』として看取りについて具体化されていないと提案していたが、今回の調査ではターミナルケアができる整備がなされ研修や書類作成、看取りについて具体化がなされていた事を書面で確認することができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習係を中心に勉強会を行ったり、日曜日の申し送り時に口頭で勉強会を行っている。年に1回消防隊員による心肺蘇生、AEDの訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災発生防止として、毎日、自主検査を行っている。年に2回消防訓練を実施し、消防隊員や近隣の方や関連施設の協力を得ている。また、日曜日に出火場所を想定した口頭での訓練を行っている。	火災訓練では、消防署立会、点検業者の指導を受けている。近隣住民も参加され、訓練後には意見をいただいている。関連施設の職員も参加している。自然災害対策の作成はされているが、訓練は未実施である。ホーム内のカーテンは防災素材を使用している。	

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の「人としての尊厳を重視します」を念頭に置き、排泄介助時の配慮、また、拘束委員が言葉の拘束がないか抜き打ちチェックを行っている。	排泄誘導時には、他の入居者にわからないようにさりげなく言葉掛けをしている。 入居者の居室への入室時には、ノックして失礼しますと伝えて入室している。後ろから声を掛けない、コミュニケーション時には同じ視線で話をする事を基本にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができるような問いかけを行ったり、散歩や買い物、家族への電話要求等、できるだけ希望に沿うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを大切に、朝は起きたい時に起き、1人で過ごしたい時は居室で過ごして頂く等、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の化粧水、ヘアクリームをつけたり、行事時や受診時の化粧や衣類の選択等、その人が望む身だしなみやおしゃれへの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が献立書きを行い、一緒にテーブルを拭いたり、食器拭きを行っている。また、食事摂取により、好みの物を補食することもある。	入居者が食事前に今日のメニューをフロアに書き、順番でいただきますの号令をかけてから食事を開始している。共にテーブル拭きや食器拭きをしている。食事摂取量が少ない利用者には好みのもので補食を実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成。入浴前後の水分補給や一人ひとりの状態に応じた食事の形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを習慣化し、ブラッシング介助や歯間ブラシの使用等、その人に応じた支援を行っている。また、週2回ポリデント消毒と週1回歯ブラシセット消毒を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立に向けて、排泄パターンを把握し排泄誘導したり、Eーボールによる膀胱括約筋筋力訓練を行い、汚染・漏れ防止に努め、入所時の紙おむつやリハビリパンツ使用から下着着用への支援を行っている。	個人の排泄パターンを把握することで、入居時にはおむつ使用であった入居者がリハビリパンツ、更には布パンツ使用までの自立への向上を目標に支援し、その結果、おむつ使用から布パンツ使用までの成果が出ており、ADLの向上に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に冷水や牛乳、ココアを勧めたり、腹部マッサージや体操を行っている。やむを得ない時は、下剤調整を行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お湯の温度の好みを把握し入浴を勧めたり、気が合う同士の入浴を勧め、浴槽内での会話や歌を歌ったり入浴を楽しむことができるよう支援している。	曜日や時間は決めてはいるが、入居者の意思を尊重する為、希望通りに入浴していただいている。温度は、入居者の好む温度がある為、熱い温度を好む方から入浴する順番で効率よく楽しく入浴ができる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、湿度の調整や敷毛布や電気あんかの使用、就寝中の灯りの調整、ぬいぐるみとの添寝、馴染みの寝具など、安眠できる支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服フローチャートに沿った服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	仕事にきていると思われる入居者に洗濯物干したたみや食器拭き等を、体操時に先生として入居者の前で体操する等、役割への支援やドライブや外気浴等楽しみごとへの支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外食や墓参り等個別支援や故郷巡り、棚田祭り、ジョイフルでの喫茶、孔雀園までのドライブ、初詣等、外出支援を行っている。	入居者と家族の希望に応じている。花見や地元の催し物に参加する機会が多く、体調等に異常がない限り入居者全員参加している。家族との外食や外泊等では希望に沿える支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて、自己管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日、就寝時に自ら家族に電話したり、贈物のお礼の電話や手紙を書いたり、年賀状のやり取りができる支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	屋内では、迷いがないように場所を標示している。天窓から陽光が射し明るい居間で過ごし、季節感のある手作りカレンダーの掲示や食事時のBGM等、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居間は、フロアで過ごされる入居者が多く、寛いで他の入居者との会話がなされている。昼食後等に天窓を開けて換気を行っている。雛人形がフロア隅の畳の間に飾りっており、今度は、端午の節句の飾りを置く予定。毎月、季節に応じたぬり絵カレンダーを入居者が作成して壁に貼っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人でゆっくりできる居室でのテレビ視聴や気の合った同士での談話やテレビ視聴、ジグソーパズル等、入居者同士で過ごせる居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや仏壇、こたつ、冷蔵庫、個人の使い慣れた家具を持参し、居心地よく過ごせるよう配慮している。	入居者の馴染みの物を持ち込んで居室は個性のある配置がなされてる。入居者、家族の希望の物品が配置され、居室に仏壇・冷蔵庫・筆筒・こたつ等を持ち込んであり、各室個性のある居室である。	馴染みの物品の持ち込みは希望をかなえられているので、入居時に入居者や家族が安心できるように契約書等に付記してはどうかと提案した。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動しやすい手すり、その人に合った補助具の使用、場所の標示を行う等、安全な環境作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 れもん

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時、理念とその具体策を発表し、その日の介護につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	畑の原祭り、陶器祭り、夏祭り等地域の行事に参加している。また、ちまき作りの際は近隣の方に配っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	婦人会の方や、体験学習の中学生に認知症について説明している。家族が相談に来られた時は、支援方法等指導している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回会議を開催し、食事会や職員会議に参加して頂き、意見交換を行いサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所・退所、事故発生時等の報告。運営推進会議に参加して頂いて意見交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回身体拘束廃止委員会に参加し、職員会議で報告している。アンケートや事例検討学習会を行い、職員全体で取り組んでいる。		

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会の参加や新聞記事の抄読会を行い、情報を共有している。入浴時に皮膚の観察を行い、不自然な傷や皮下出血がないか確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者がいないため、活用していないが、研修会等で学ぶ機会はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時契約書に沿って説明し、不安や疑問点を尋ね、相互理解に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口の説明、意見箱の設置、年1回の家族アンケート調査、面会時に直接意見を聞く等により運営の反映に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	はさみ荘、デイサービス、合同の全体会議や職員会議、個別面接により意見交換を行っている。また、意見や提案をいえる環境に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	タイムカードによる労働時間の把握、資格取得や昇格制度によるベースアップ、また個人目標を掲げ、各自が向上できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や個々の経験に応じた研修への参加、保健所からの出前研修等、学習会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東彼3町やケアネットはさみなどの学習会・交流会に参加し、同業者間の意見交換やネットワーク作りに努めている。		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前訪問を行い、不安や要望等を聴き、初期計画に取り入れ、安心を確保するための関係作りに努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、本人や家族の要望を確認し、初期計画に取り入れている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時、本人・家族より情報収集、また事業所からのサマリーより情報収集し、早期に必要な支援を見極め、意向を確認しながら支援方法を決定している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しやたたみ、食器拭き、掃除、裁縫等の家事を一緒に行うことで、関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケア会議や行事への参加、面会時に日頃の情報提供、お盆やお正月の帰宅など、家族との交流機会を大切にしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	故郷巡りや家族との外出・外泊、知人との面会、馴染みの美容室でのカットやパーマ等が継続できるよう援助している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間での席の配置を考慮したり、職員が話題を提供・仲介し、入居者同士が関われるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や入所している方の面会、退所後の家族の相談や訪問を受け入れている。	

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に習慣にされている事や意向を聞き、希望に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や介護支援専門員から、口頭や情報提供用紙から情報収集したものを基礎情報用紙に記入し把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や業務日誌、申し送りノートから情報収集し把握に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受持ち制による情報収集を行い、ケアプランの立案、モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌に目を通して情報を収集し、介護計画に基づいた記録を展開しながら、情報を共有しケアに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて臨機応変に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉車両やボランティアの支援を得て、町やはさみ荘の行事などに参加している。	

30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医の継続受診。症状出現時は家族へ連絡して、希望病院を受診し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間医療連携がとれる体制があり、異常を発見したり、気がかりなことがあれば、看護師へ報告して受診支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリーを提供し、退院時には病院関係者と話し合い、退院後の生活に役立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケアの指針、手順を作成した。本人、家族の意向は共通理解用紙に記録している。終末期ケアについて、ホーム内外での勉強会に参加している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日曜日の申し送りの際、急変時の対応や吸引、心臓マッサージなど勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消火・通報・避難訓練の実施、災害時のマップ確認を行い、近隣や関連施設・病院の協力体制を築いている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けのトーン、スピード、言葉遣いに気をつけている。理念に「人としての尊厳を重視します」掲げ、特に排泄介助等配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択、決定できるよう「どちらがいいですか？」など選択しやすいよう声掛けしている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日は何をしましょうか？等、問いかけている。買い物や散歩、家族の誘い等希望に沿って支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出に合わせた身繕いの支援、洗面後、入浴後の整容の支援を行っている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会のケーキや行事のちまき作り、毎日の献立書き、食後のテーブル拭きや片づけなど個々の力を活かして一緒に行っている。また、梅干しやコーヒー等嗜好品を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるカロリー計算、献立作成。その方の状態に応じた補食や水分補給、食事形態の支援。健康チェック表に記入。むせる方にはとろみやゼリー使用。摂取量が少ない時には補食提供。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き施行。個々に応じたブラッシング介助、舌・歯間ブラシなどの選択をしている。	

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認して排泄の確認声掛けを行う。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	早朝（起床時）に冷水・冷ココアの摂取を勧める。腹部マッサージや運動を行い、それでも、効果なければ、薬剤による調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望により入浴時間の調整、一人ひとりに合った温度、浴槽に浸かり歌を歌う等、個々に沿った入浴支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望に応じた就寝時間、昼間の休息、夜間の安眠に繋がる午睡時間の調整、室温や寝具の調整等良眠できる支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服フローチャートに沿った服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日めくりカレンダーの交換、食後の食器拭き、毎食前後のテーブル拭き、裁縫等、一人ひとりの力量を活かした役割への支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冠婚葬祭や墓参り、買い物、家族との外食、芝居鑑賞等、本人の希望に沿い、家族や職員が同伴し支援している。		

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の能力に応じてお金を自己管理し、お孫さんにお小遣いを渡したり、外出時に買い物ができるように支援している。、		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	小包が届いたときのお礼の電話や入居者が希望される時は電話や手紙の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月の季節がわかるカレンダー作成、場所の標記、エアコンの調節を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれる居室に籐椅子、馴染みの方とお茶会ができる場所を提供している。時に外庭にテーブルや椅子を設置することもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や馴染みの家具、置物、テレビやラジオ、テーブル等、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の標記、トイレ、物干しなどの高さ調節、身体状況に応じた補助具の選択。		